

2021年3月 日本貿易振興機構（JETRO）ヤンゴン事務所 作成

項目	ミャンマー	根拠資料
1. 基礎データ		
高等教育機関数（大学・大学院・その他）	国立大学：163校、大学院：90校、私立大学：21校 （※2020年時点）	ミャンマーの高等教育を調査。下記ウェブサイト参照。 https://en.wikipedia.org/wiki/Higher_education_in_Myanmar
高等教育の卒業生数（学部生、院生）	学部生・大学院生含む：303,457名 （※2019年時点）	DTPC:Department of Technology Promotion and Cordinationから調査。下記ウェブサイト参照。 http://dtpc.moe-st.gov.mm/?page_id=1824
高等教育概要（入学、学生生活、卒業）	ミャンマーの教育制度について現在も協議中だが、2023年までにはKG（幼稚園）を含め学年13年間の教育システムに変わる予定である。2023年以降、高校（Grade10-Grade12）の学年数に変更になり、日本と同様の12年制の教育になる予定である。 現在は11年制で高校生の最終学年にセーダン試験（高校卒業兼大学入試試験）を受験し、セーダン試験の得点により入学する大学を決める。一般的に文系大学4年制、IT大学5年制、理系大学6年制である。	1. Ministry of education（教育省）、Department of Basic Education（基礎教育学科）Directorへヒアリング。 2. また、下記ウェブサイト参照。 https://www.pyithuhluttaw.gov.mm/node/10496
学生が就職する一般的な方法、一般的なプラットフォーム（就職情報サイト名など）	学生は卒業後、J-SAT（日系企業向け人材紹介会社）My Jobs Myanmar（ローカル企業及び外資系向け人材紹介会社）、Jonbet（インターネット求人媒体）などの人材紹介会社に登録して就職活動を行うことが多く、人材紹介会社からの連絡を待つことが多い。Facebookを利用し、企業が応募するページから履歴書を送り、自ら就職活動を行う場合もある。 他には学校で実施するインターンシップから就職したり、就活イベント開催会社が主催する就活フェアに参加して応募することもある。	J-SATへ求職登録する学生から就職方法をヒアリング。

項目	ミャンマー	根拠資料
卒業後の一般的なキャリア形成	<p>毎年20万人の学生がミャンマー国内の大学を卒業するが、国内ローカル企業や進出外資系企業もまだまだ少ないため、人口に対する全体的な企業への就職口がまだまだ少ないのが実情である。そのため、新卒から企業に入社できるのは少数である。新卒者は大学を卒業後、自身が就職しやすくなるよう、専門的や資格や言語を学ぶためのビジネス学校に通うことが多い。ビジネス学校に通いながら、親の手伝いなどを行い、就職先が見つければ就職する。</p> <p>比較的に転職を積み重ねてキャリアを形成する人材が多いが、J-SATが調査した2019年度の日系企業の1年間の離職率は12.5%であり、同年の日本での離職率と比較してもさほど変わらない。そのため、ミャンマー人材だからすぐ離職するという理解ではなく、自分に合った会社であれば、1社でも長くキャリアを積みたい人材は一定層いる。</p>	<p>J-SATへ求職登録する学生からキャリアをヒアリング。</p> <p>2020年1月にJ-SAT独自で人事に関するアンケートを実施し、日系企業165社の回答から離職率を調査。</p>
キャリアへの一般的な考え方（海外勤務や外国企業への勤務意欲、仕事で大事にしていることなど）	<p>自分が学んだ分野でキャリアを積みたいと考える方が多く、そのためスキルは日本を含む外国企業でより得られると考え、ミャンマー企業より給与や仕事の環境面が良い外国企業への就職意欲は高い傾向がある。</p>	<p>J-SATへ求職登録する学生からキャリアをヒアリング。</p>
学卒者／院卒者の給与の考え方や相場	<p>一般的に、大卒新卒者の給与相場は\$150～\$200/月（200,000MMK～250,000MMK/月）が相場である。2020年9月現在、ミャンマーの最低賃金が144,000MMKのため、最低賃金が該当となるワーカー人材と比較して高い水準となっている。また、機械や電気などの6年制の理系大学を卒業した人材や日本語学部を卒業した特殊スキルを持つ新卒であれば、給与相場は\$200～\$300が一般的である。</p>	<p>2020年1月にJ-SAT独自で人事に関するアンケートを実施し、日系企業165社の回答から調査。</p>
学生との主要交流イベント（日本企業も参加できるイベント）	<p>ティラワ経済特区に最も近隣のタンリン工科大学（TTU）で、ヤンゴン唯一の日本語学部がある大学であるヤンゴン外国語大学（YUFL）にて毎年J-SAT主催でインターンシップや就活フェアが参加できる。</p>	<p>J-SATと各大学との取り組み実績。</p>
2. 日本語人材		
外国への留学生数、うち日本への留学生数	<p>2019年度、文部科学省の調査によると、ミャンマーから日本への留学生数は5,383名。</p>	<p>2019年度、文部科学省の調査。下記ウェブサイトを参照。 https://www.mext.go.jp/content/20200421-mxt_gakushi02-100001342_1.pdf</p>

項目	ミャンマー	根拠資料
日本語専攻の卒業生数	2020年度卒業生数：160名 ヤンゴン外国語大学（YUFL）：90名、マングレー外国語大学（MUFL）：70名	YUFL、MUFLの大学へヒアリング
日本語を専攻する学生の人気の就職先／一般的な就職先	主に、日本語学部のある学生は卒業後に、日本語学校の教師やフリーランスの翻訳として働くことが多い。日系金融機関や商社、日本語が使えるサービス業界の企業も人気である。同じ学部を卒業した先輩から企業情報を聞くことが多く、卒業した先輩が働く企業も注目することが多い。	J-SATへ求職登録したYUFLとMUFLの学生から就職先を調査。
キャリアへの一般的な考え方（海外勤務や外国企業への勤務意欲、仕事で大事にしていることなど）	2019年、マングレー外国語大学（MUFL）最終学生79名に調査したところ、31%の方が日本での就職を希望した。過半数以上はミャンマー国内の日系企業に就職することを目標としている。大学で4年間学んだ日本語を活かすことができるかがキャリアにおいて大事な要素の1つである。	J-SATへ求職登録したMUFLの学生からキャリアを調査。
日本語を専攻する学生へ日本企業がコンタクトする方法（イベント、大学就職課へのコンタクト、など）	卒業後、J-SATなど日系企業を紹介する人材紹介会社へ登録するため、人材紹介会社を通じて面談が可能。卒業前のイベントとしてはJ-SATが毎年主催するインターンシップや就職フェアのイベントに参加可能。ヤンゴン外国語大学（YUFL）のインターンシップは毎年5月、就活フェアは7月頃を予定している。	J-SATと各大学との取り組み実績。
日本語専攻を有する主要高等教育機関3校程度とそれぞれの特徴、ウェブサイト（英語）	ミャンマーにはヤンゴン外国語大学（YUFL）とマングレー外国語大学（MUFL）の2校のみ日本語学部が存在する。両校とも同じカリキュラムで卒業時にN2レベルを目標とする。 ・ヤンゴン外国語大学（YUFL）： 特徴：日本人の留学生もいるため、マングレー外国語大学よりスピーキング能力はやや高い。 Webサイト：https://www.yufl.edu.mm/demo ・マングレー外国語大学（MUFL） 特徴：スピーキング能力はヤンゴン外国語大学と比べるとやや低い が、日本語教師のアルバイトをする学生が多く、文法や単語力などの基礎能力が高い。 Webサイト：http://www.mufl.edu.mm	各大学の学生のJ-SATへ求職登録から調査。下記ウェブサイトを参照。 YUFLのウェブサイト：https://www.yufl.edu.mm/demo MUFLのウェブサイト：http://www.mufl.edu.mm
3. IT・デジタル関連人材		
(1) 大学生・大学院生の新卒者の採用		

項目	ミャンマー	根拠資料
IT・デジタル専攻の卒業生数	2019年度 卒業生：2,482名（学部生）、164名（大学院生）	各IT大学のWebサイト及びフェイスブックから2019年度の卒業生を調査。また、各大学の学生課へヒアリング。
ITを専攻する学生の人気の就職先／一般的な就職先	ITを専攻する人材は、ネットワークエンジニアやシステムエンジニア、プログラマーの職種を目指す人材が多い。日系、外資系企業のオフショア拠点として、就職する人材が多い。一部の中国系IT・通信企業では日系企業よりも給与が高く、人気の就職先である。	J-SATへ求職登録するIT学生から就職方法をヒアリング。
キャリアへの考え方（海外勤務や外国企業への勤務意欲、仕事で大事にしていることなど）	他の職種と比較しても、IT人材は数年でジョブホップしてキャリアアップをする傾向がある。 近年では、オフショア開発など外資系IT企業の進出も多いが、ミャンマー国内でIT人材の全体数が少ないため、IT人材のニーズは高くなっている。	J-SATへ求職登録するIT学生からキャリアをヒアリング。
外国語力（日本語、英語）	英語は幼稚園の頃から学び、大学の教科書も全て英語で記載がされているため、大卒人材であれば比較的英語の読み書きは問題なく、スピーキングも日常会話程できる人材が多い。日本語ができるIT人材は極めて少ない。	J-SATへ求職登録するIT学生から調査。
第三国（当該国&日本以外）での就職状況	第三国だと、シンガポールへ就職する人材もごく一部いる。ミャンマー国内にある企業では得られないITスキルと給与を求める。	J-SATへ求職登録するIT学生からキャリアをヒアリング。
日本企業や日本での勤務の考え方（あれば）	日系企業の方が教育制度が充実し、未経験でも丁寧にスキルを教えもらえる印象を持っている。中国や他国のIT・企業と比べると、日系企業に対して給与が高い印象を持ってはいないため、レベルの高い人材は外資系に目を向けることが多い。	J-SATへ求職登録するIT学生からキャリアをヒアリング。

項目	ミャンマー	根拠資料
IT関連専攻を有する主要高等教育機関3校程度とそれぞれの特徴、ウェブサイト（英語）	<p>・UCSM（University of Computer Studies, Mandalay） 1997年に開校し、ミャンマー北部の優秀な学生が集まる大学。大学院も付随し、限られた定員の中で、優秀な学生のみ入学可能。現在700名程の学生が在籍し、外国語のカリキュラムとして日本語も教育。 Webサイト：https://www.ucsm.edu.mm/ucsm</p> <p>・UIT（University Of Information Technology） 2012年に開校し、優秀な学生のみ入学可能。学位、修士、博士号まで取得できる教育機関であり、ICT分野の研究所としても位置。 Webサイト：https://www.uit.edu.mm</p> <p>・Technological University (Yadanabon Cyber City) 2010年に開校し、ICT分野で有名な大学。入学試験に英語テストを導入。現在、約1,500人程の学生が在籍。 Webサイト：https://www.utycc.edu.mm</p>	<p>1. UCSM（University of Computer Studies, Mandalay） 下記ウェブサイト参照。 Webサイト：https://www.ucsm.edu.mm/ucsm</p> <p>2. UIT（University Of Information Technology）下記ウェブサイト参照。 Webサイト：https://www.uit.edu.mm</p> <p>3. Technological University (Yadanabon Cyber City) 下記ウェブサイト参照。 Webサイト：https://www.utycc.edu.mm</p>
IT・デジタルを専攻する学生へ日本企業がコンタクトする方法（イベントなど）	IT・デジタルを専攻する人材は一定の大学に絞られるため、大学で実施される就活イベントで参加できるケースがある。大学の先輩の口コミなどからFacebookを通じて、企業と直接コンタクトをする人材も多い。	J-SATへ求職登録するIT学生からヒアリング。
(2) 実務経験者（大卒者）の採用		
IT・デジタル分野での就労者数	IT・デジタル分野での就労者数に関するデータは不明だが、ITソフトウェア、ハードウェア会社は138社存在する。（内：ヤンゴン124社、マンダレー14社）Yangon・Mandalay Directory(2019年)調べ	Yangon・Mandalay 民間調査会社のDirectory(2019年)から調査。
実務経験者（転職者）の就職方法	人材紹介会社に登録をして就職活動を行うことが多い。または、企業が応募するFacebookのページに履歴書を送ることや友達の紹介で就職することも多い。就職イベントに参加して応募することもある。	J-SATへ求職登録するIT実務経験者からヒアリング。
外国語力（日本語、英語）	大卒人材であれば比較的英語の読み書きは問題なく、スピーキングも日常会話程できる人材が多い。日系企業では日本語とITスキルを教育することが多いため、日系企業から転職する人材だと日常会話程できる人材もいる。	J-SATへ求職登録するIT実務経験者からヒアリング。

項目	ミャンマー	根拠資料
IT・デジタル分野の実務経験者へ日本企業がコンタクトする方法（イベントなど）	求職者は人材紹介会社に登録するため、日系企業向け人材紹介会社などに問い合わせをすることで面談が可能。または、Jobnetなどが主催する就職イベントが年に数回実施されるため、企業のブース出展でコンタクトが可能。	J-SATへ求職登録するIT実務経験者からヒアリング。
4. 機械工学・電気関連人材		
(1) 大学生・大学院生の新卒者の採用		
機械工学・電気関連専攻の卒業生数	2020年度 6,451名（理工系学部・院生の総数。電気工学部：1920人、電力工学部：1,912人、機械工学部：2193人、機械電子工学部：426人） （※2019年実績）	1. 各技術大学のWebサイト及びフェイスブックから2019年度の卒業生を調査。 2. また、各大学の学生課へヒアリング。
機械工学・電気関連系を専攻する学生の人気の就職先／一般的な就職先	ミャンマー国内のローカル企業では技術力を求められる仕事が少ないが、テラワ経済特区にある製造業は技術力があると認識している。テラワ経済特区の中でも、日系企業の製造業やブランド力を持つ日系企業は人気の就職先である。	J-SATへ求職登録するエンジニア学生からヒアリング。
キャリアへの考え方（海外勤務や外国企業への勤務意欲、仕事で大事にしていることなど）	ミャンマーに比べて、海外や外国企業の方が技術があると認識しているため、海外や外国企業で技術を学びたいと思い、就職する人材は多い。転職を繰り返してキャリアを積み上げる傾向がある。	J-SATへ求職登録するエンジニア学生からヒアリング。
外国語力（日本語、英語）	英語に関しては幼稚園の頃から学び、大学の教科書も全て英語で記載がされているため、大卒人材であれば比較的英語の読み書きはできる。日本語ができる機械工学・電機関連系の学生は極めて少ない。	J-SATへ求職登録するエンジニア学生からヒアリング。
第三国（当該国&日本以外）での就職状況	ミャンマーで就職口が少ないため、土木専攻の人はシンガポールにある建設業で就職し、機械や電気工学専攻の人は船員などで海外で勤務することもある。	J-SATへ求職登録するエンジニア学生からヒアリング。
日本企業や日本での勤務の考え方（あれば）	ミャンマー国内には日本製品が多くあり、日系企業に対して大きな期待を持っている。日系企業は技術力や安全性の意識が高く、日系企業で学びたいと感じる人材が多い。規則が厳しいがしっかりとマネジメントされている印象を持つ。	J-SATへ求職登録するエンジニア学生からヒアリング。

項目	ミャンマー	根拠資料
機械工学・電気を専攻する学生へ日本企業がコンタクトする方法 (イベントなど)	最終学年になると、卒業論文、卒業制作などに多く時間を要するため、在学中でコンタクトするのは難しい。卒業後にJ-SATなど日系企業を紹介する人材紹介会社へ登録するため、日系企業向け人材紹介会社へ問い合わせにすることで面談が可能。	J-SATへ求職登録するエンジニア学生からヒアリング。
機械工学・電気関連系専攻を有する有力な高等教育機関3校程度とそれぞれの特徴、ウェブサイト(英語)、連絡先	<p>・TTU(Technological University, Thanlyin) ティラワ経済特区に最も近い工科大学。1986年にトレーニングセンターとして開校し、2007年に工科大学として開校。専門9科目を教育。 Webサイト：https://www.facebook.com/tuthanlyin/</p> <p>・WYTU(West Yangon Technological University) 1996年にヤンゴン工科大学(YTU)の第2キャンパスとして設立。市内のヤンゴン工科大学が閉鎖された際に、現在のWYTUキャンパスにてYTUの先生が教壇。2005年にWYTUとYTUに分けて開校。現在、専門12科目を教育。 Webサイト：http://www.wytu.edu.mm</p> <p>・TUM(Technological University, Mandalay) 1955年にGovernment Technical Institute(G.T.I)として設立し、2020年に現在のTechnological University Mandalay(TUM)に名称を変更。ミャンマーにて最も古い工科大学の一つ。現在、約4,500人程の学生が在学し、専門10科目を教育。 Webサイト：https://www.tum-mandalay.edu.mm</p>	<p>1. TTU(Technological University, Thanlyin)下記ウェブサイト参照。 Webサイト：https://www.facebook.com/tuthanlyin/</p> <p>2. WYTU(West Yangon Technological University)下記ウェブサイト参照。 Webサイト：http://www.wytu.edu.mm</p> <p>3. TUM(Technological University, Mandalay)下記ウェブサイト参照。 Webサイト：https://www.tum-mandalay.edu.mm</p>
(2) 実務経験者(大卒者)の採用		
機械工学・電気関連分野での就労者数	機械工学・電気関連分野での就労者数に関するデータは不明だが、エンジニアリング会社は1,282社登録されている。(内：ヤンゴン1,104社、マンダレー178社) Yangon・Mandalay Directory(2019年)調べ	Yangon・Mandalay 民間調査会社のDirectory(2019年)から調査。
実務経験者(転職者)の就職方法	人材紹介会社に登録をして就職活動を行うことが多い。または、企業が応募するFacebookのページに履歴書を送ることや友達の紹介で就職することも多い。就職イベントに参加して応募することもある。	J-SATへ求職登録するエンジニア実務経験者からヒアリング。
外国語力(日本語、英語)	英語に関しては幼稚園の頃から学び、大学の教科書も全て英語で記載がされているため、大卒人材であれば比較的英語の読み書きはできる。日本語ができる機械・電気系の人材は極めて少ない。	J-SATへ求職登録するエンジニア実務経験者からヒアリング。

項目	ミャンマー	根拠資料
機械工学・電気を専攻する実務経験者へ日本企業がコンタクトする方法（イベントなど）	J-SATなど日系企業を紹介する人材紹介会社へ問い合わせにより面談が可能。または、Jobnetなどが主催する就職イベントが年に数回実施されるため、企業のブース出展で実務経験者とコンタクトが可能。	J-SATへ求職登録するエンジニア実務経験者からヒアリング。
5. その他		
当該国政府の高度人材育成方針	ミャンマー政府が2016年～2021年の5年間教育計画（NESP：National Education Strategic Plan）を確立。主な3つの方針として、1、高等教育の管理強化2、教育の質の強化、3、国民が平等に教育を受けられることの3つ。その内容には、高等教育の教師への育成を謳っている。国際的研究所、大学への研修派遣やインターネットを活用した教育レベルの向上などが記載されている。	NESP：National Education Strategic Plan調べ。下記ウェブサイトを参照。 https://www.britishcouncil.org/sites/default/files/myanmar_national_education_strategic_plan_2016-21.pdf
新型コロナウイルスの影響（短期的な変化に加え、構造的な変化等も見られる場合はそれも記載）	新型コロナウイルスが国内で拡大後、就職を考える要素として安全面の要素を考慮している。例えば、会社から家への通勤距離、福利厚生や手当の充実など、以前より意識が高い。新型コロナウイルスの影響により、ミャンマー企業や外資系企業が解雇や給与の減額があったことと比較して、日系企業の給与100%支給が多かったり、対策や手当の充実に安心感があったため、今後日系企業の安全面が注目されるだろう。	コロナ禍のJ-SATへの求職登録社から心境をヒアリング。 2020年4月にコロナ禍での人事対応を日系企業112社へ調査し、日系企業の給与支給状況を調査。